

【様式1】平成28年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	羽島市	学校名	桑原小学校			
校長名	小川和彦	対象学年	3年・5年・全校	人数	16名・20名・106名	
活動名	桑原大すき（3年） アイガモ農法挑戦（5年） 地域ふれあい活動（全校） 双樹園交流（全校）	時間数	3年生（30時間） 5年生（24時間） 全校（4時間） 全校（15時間）	継続年数	18年 18年 19年 24年	
題材	①自然環境（動物） [牛とのふれあい体験] ②歴史（史跡・その他） [桑原町探検（寺・神社・河川関係）] ③文化（風習） [行灯作り・大根鉄砲作り・餅つき体験・五平餅作り] ④地場産業（農業・その他） [田植え・アイガモ放鳥・稲刈り・青田刈り・注連縄作り] ⑤地域との積極的な関わりをつくる活動 [双樹園交流・福祉体験] ⑥その他（地産地消） [桑原ふるさとけんちん汁の下準備（材料洗い、材料切り）]					
複数年継続するための工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> 活動の記録を確実に残し、前年度の実践から次年度へ改善点を明らかにして進める。 学年の発達段階に応じた地域を素材にした活動を計画し、教科、道徳、総合的な学習との関わりや、事前、事中、事後のつながりを大切に実践する。それにより地域の人々や自然、産業について、継続的、発展的に、関わり合えるようにする。 活動に関わる桑原町の生涯学習活動振興会を始めとする諸団体と連絡を密にとり、事前事後の連絡を大事にして、活動の願いの共有と改善に努めている。 					

1 ねらい 桑原町の自然・文化・産業等を学び、桑原町の一員としての自覚や誇りを育てる。

2 活動の概要

テーマ	学年	課題	学習活動	児童生徒の様子
桑原大好き	3年	自然や文化に興味関心をもって調べ、ふるさと桑原を愛し大切にしようとする	<ul style="list-style-type: none"> 桑原探検で町の様子を知る。 地域の人と触れ合う活動（行灯作り・大根鉄砲作り 他） 	地域の方に進んで話しかけて活動を進めたり、探検学習の成果を分かりやすく伝えたりすることができた。
アイガモ農法挑戦	5年	米作りの活動を通して、稲の生育や農法の問題を知り、米作りへの考えを深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 田植え・アイガモ放鳥・稲刈りをする。収穫したアイガモ米を使い五平餅を作る。 	講師の方の話を熱心に聞き、田植えや放鳥、稲刈りに進んで取り組んでいた。また地域の方との交流も積極的であった。
地域ふれあい活動	1年2年	牛の生育の様子を知り、命の尊さを感じるとともに、牛乳を大切に飲むとうとする気持ちをもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 牛の生育と生乳について知り、仔牛の心音を聞いたり、哺乳体験を行った。 母牛の搾乳体験を行った。 	牛の心音を聞き、温かさに触れることで、命の尊さを感じ、搾乳できるまでの世話や牛の状態を知ることで、身近な牛乳を大切に飲みたいと思えた。
	3年	小刀やのこぎりを使って竹を細工し、大根鉄砲を作ることができる。桑原で収穫された大根をきれいに洗い、自然の恵みの豊かさを感じる。	<ul style="list-style-type: none"> 大根鉄砲の作り方を、町の老人会の方から学び親子で制作、飛ばして改善する。 収穫された大根をきれいに洗う。 	小刀の使い方を事前に図工で練習し、自分の力で作ろうと一生懸命な姿がみられた。遠くまで飛ばそうと繰り返し行った。大きく育った大根を洗うことで自然の恵みの豊かさを実感することができた。
	4年	高齢者疑似体験を通し、高齢者との関わりについて考えを深めようとする。桑原で収穫された人参をきれいに洗い、自然の恵みの豊かさを感じる。	<ul style="list-style-type: none"> 福祉協議会職員の話聞く。 高齢者疑似体験セットを装着し、普段の生活との違いが分かる。 桑原で収穫された人参を丁寧に洗ったり餅つき体験を行う。 	高齢者体験では身体の不自由さを実感することができ、自分にできることは何かを考えることができた。収穫された人参の新鮮さを味わい、ボート愛好会の協力を得て餅つきを行い米の甘さを味わうことができた。
	5年	収穫したアイガモ米で五平餅を作り伝統的な郷土食を味わう。大根の皮をむき、イチョウ切りすることでけんちん汁作りに携わることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 五平餅の由来の話聞く。 五平餅の作り方や、大根の切り方を、町の婦人部の方から教えてもらいながら活動できた。 	五平餅が沖部地方に伝わる郷土食、米が貴重であった時代に祭りや祝いの場で食べられたことを知り丁寧に作ることができた。揃えて切ることの難しさを感じながらも、汁作りに参加した喜びを味わった。
	6年	夏に青田刈りをした藁を使って、しめ飾りを作ることができる。人参の皮をむき、イチョウ切りすることでけんちん汁作りに携わることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 事前に藁の縄の結び方を動画で学習。注連飾りの作り方を、青少年育成推進委員から学び、親子でしめ飾りを作る。 けんちん汁材料の下準備を行う。 	縄の結び方に苦労しながらも制作に集中して取り組み全員が仕上がる事ができた。中学への進学に向かう年の門出にふさわしい注連縄ができたことを喜び、これからも地域の人とふれあいたいと思うことができた。
双樹園交流	全校	交流を通して障害のある方について正しく理解し、共に協力して生活していこうとする態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 双樹園の方のお話を聞く 年2回学級毎に交流会を行う。 双樹園コンサートへの出演(4年) 	初回の反省を活かし2回目の交流をよりよいものにして、ゲームや給食等、一緒に楽しむことを大切にして会を運営できた。

3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

ふるさと桑原の自然・文化・産業（農業・酪農）に直に触れることができるよう、六年間の発達段階を考慮し、年間を通じて学年毎に諸団体と連携を図りながら活動を進めた。11月の「地域ふれあい活動」では、桑原町コミュニティセンターが連携の拠点となり、地域を始め12団体60余名に協力を頂き活動を行った。「子どもたちのために素晴らしい体験を」と協力を惜しまない支えがあるからこそ、継続した活動が行うことができています。お世話になる方に、桑原で収穫された野菜を使った保護者による汁が保護者により振る舞われる。今年度は野菜を3、4年生が洗い、5、6年生が材料を切ることで汁作りに携わった。総合的な学習の発表の場として、2月の町文化祭では、一年を通して学んだ成果を展示発表し、家庭や地域へ発信していく予定である。

4 活動による児童生徒の姿容（伸長・成長等）

「桑原の米は最高においしい」「これからも地域の人との関わりを大切に生活したい」6年間の学びを通して、地域の温かさ、素晴らしいことにふれた子どもたち。思うように活動が進まない時にも、自ら考え質問したり、やり直したりして最後まで粘り強く取り組めたことに喜びを感じる事ができた。地域の方の支えがあったからこそできたことに感謝の念を抱きつつ、地域に生き、地域を誇ることのできる地域社会人として確かな一歩を刻んでいる。

